ISSN 1343-0947

一般社団法人 ဂျပန်-မြန်မာချစ်ကြည်ရေးအသင်း

日本ミャンマー友好協会報

第162号
平成30年8月発行

一般社団法人 日本ミャンマー友好協会　E-mail●tzkosm@abelia.ocn.ne.jp　http://jmfa-main.com/
●本　部 〒160-0012 東京都新宿区南元町13-3-504　TEL.03-6380-0409
●広報部 〒243-0017 神奈川県厚木市栄町1-2-2-322　FAX.046-224-3011

発行人：米村紀幸
編集人：松尾義久

収録内容

巻頭言 …… 2
平成30年度役員名簿 …… 3
平成30年度総会 …… 3
ミャンマー祭り盛況のうちに終了 …… 3
本部だより･ヤンゴンだより …… 4～5
関西支部ニュース …… 5
ミャンマー国有鉄道OB会への参加および
　ミャンマー鉄道の革新 …… 6～7
ミャンマーで日本が鉄道の近代化を支援 … 7
ナチャンさんの泉 …… 8～11
レド公路、援蒋ルートを行く② …… 12～13
多文化まるごと講座･ミャンマー編開催… 13～14
入会のご案内 …… 15
表紙に寄せて …… 15
会費納入のお願い …… 15
協賛企業 …… 16
編集後記「ヤダナー」 …… 16

日本と協働で計画　5ページ記事より

写真：ちょっと緊張?晴れ着で行事に参加する女の子　ヤンゴン郊外の寺院にて（撮影／岡晃市）

当協会はミャンマー関係で唯一外務省から認知されている一般社団法人です。

巻頭言　会員の皆様の積極的な活動を!

一般社団法人 日本ミャンマー友好協会
会長　米村 紀幸

1　ようやく進みはじめた規制緩和

ミャンマー経済の発展のためには、外資の参入が不可欠であり、そのためには、規制緩和が必要である。このところ、ようやく規制緩和が進みはじめた。

1）会社法の改正

8月1日施行の会社法改正において、外資35%までの会社は、内資として扱われることになった。これにより、外国資本がいろいろな形で参入できると思われる。

2）卸売業・小売り業の規制緩和

これまで、商業分野の外資参入は、実質上困難であったが、この度の改正により、初期投資額にもとづく要件をクリアすれば外資による事業がみとめられることになった。

3）輸入業務の緩和

また、外資には、輸入業務はみとめてこなかったが、卸売業・小売り業において一定の範囲でみとめられることになったことにより、100%外資による輸入販売業をおこなうことができるようになった。

4）観光ビザの免除

10月1日から、日本人、韓国人を対象に観光ビザの免除される見込みである。ミャンマーホテル観光省は、観光誘致を強化しているところである。

こうした動きを背景として、2017年の外国投資は、前年にくらべ、件数において138件から222件へと大幅に増加した。もっとも、2016年は、外国投資法、会社法などの先行きが不透明であった。こうした状況が、最近の一連の規制緩和の動機になったものと思われる。分野別では、製造業が136件と過半を占めている。

日本のミャンマー投資も、2017年大きく伸張した。シンガポールなど迂回投資を含めると約15億ドルであった。（前年は2.6億ドル）注：DICA資料による。

2　73歳の誕生日を迎えたアウンサンスーチー国家顧問

スーチーさんが、73歳の誕生日を迎え、当然、このさきの政治運営が気になるところである。現在は、依然として国民の圧倒的支持を得ており、一方、国民支持を得られる後継者を見つけることは、なかなか大変であろう。当面、和平の解決が最大の課題であるが、本格的な民主化への途はまだこれからであり、政治的安定のもとに、一層の経済発展に向けて前進していくことが期待される

3　協会活動

1）総会および懇親会の開催

• 6月24日、当協会の総会が開催された。議案のポイントとしては、関西支部を設立し、木村　憲二氏に支部長を引き受けていただくことになった。今後、今年度内に関西でミャンマーセミナーを開催できればと考えている。関西支部としても、独自のプランを立て、実行していくことを期待したい。また、三重県支部など他地域での活動も期待しているところである。

• 2019年1月19日（土）、ミャンマー映画会を開催することが決定された。友好協会として4回目の映画会である。映画の選定はこれからである。

• 総会後の懇親会においては、ミャンマー大使館からも多数参加いただき、キンニラーソー公使から丁寧なご挨拶をいただいた。（大使は、出席を予定されていたが急遽、欠席されることになった）。

今年の特徴は、新規に参加された方が多く、また、あらたな交流の輪がひろがった。なお、当日の写真は、HPに掲載されている。

2）ミャンマー祭り参加

6月30日、7月1日、芝増上寺で開催されたミャンマー祭りに友好協会として参加した。今年は、2ブースを設け、物品などの販売、協会のPRなどをおこなった。

特記事項として、国内在住のシャン州出身の方々に参加いただき、交流の場をひろげられた。猛暑の中、ブースをマネージしていただいた会員の皆様に感謝申し上げたい。なお、当日の模様は、HPに写真が掲載されている。

4　ミャンマー経済・投資センター

1）樋口前ミャンマー大使の講演

5月22日、樋口前ミャンマー大使から、ミャンマーの課題と今後の展望について講演をいただいた。第50回の例会を記念して、今回は、はじめて日本アセアンセンターとの共催で開催したところ、150人を超える参加者で大変盛況であった。ロヒンギャ問題についてミャンマー政府の立場を支持すると表明されたことが印象に残った。また、当日、テイラワ工業団地の建設に尽力された住友商事　梁井崇史氏からヤンゴン在住5年間のお話しをいただいた。

今後も、テーマ、講師によってアセアンセンターとの共催を計画してゆきたいと思っている。

2）AOTSミャンマーOB会とのMOU締結

海外技術者研修協会（AOTS）は、海外の同窓会組織を持っているが、昨年来、ミャンマーのOB会と交流してきた。

特徴は、メンバーはビジネス関係者でAOTSの行事に参加するかたちで来日経験がある。そして、日本とのビジネス交流に関心をもっている。交流の具体化のため、MOUが必要であるとの提案があり、この度、MOUを締結したものである（6月1日）。今年度、何らかの共同事業を実施してゆきたいと考えている。

5　今後にむけて

会員の増加に向けて、会員の皆様の積極的な活動をお願いしたい。

一般社団法人　日本ミャンマー友好協会　平成30年度役員名簿

会長	米村　紀幸	理事	丸山　憲治	監事	藤村　建夫
副会長	高松　重信	理事	古川　健士	監事	柴崎　　等
副会長	髙橋　秀夫	理事	イーイーミン	監事	渡邉　奉勝
副会長	三宅　紘一	理事	イイキン	名誉顧問	千野　皓司
専務理事	都築　　治	理事	キンチー	顧問	田島　高志
常務理事	山下　賢一	理事	伊藤秀以智	顧問	山口　洋一
常務理事	新美　鉄雄	理事	水戸部麻里	顧問	津守　　滋
理事	山田　長満	理事	角谷　猛志	相談役	安城　欽寿
理事	田中　　進	理事	浅野　靜二	相談役	池田　正隆
理事	松尾　義久	理事	木村　憲二	参与	湯ノ口俊市郎

支部：関西、関東、愛知、四国、ヤンゴン、三重

一般社団法人日本ミャンマー友好協会　平成30年度総会

平成30年6月24日（日）
霞が関ビル35階 東海大学校友会館

総会には総数65名以上が参加され、盛会裏に終了することができました。大使館からは公使など4人、武官室からは2人のご来席がありました。北海道、徳島など遠方からの参加もありました。来年度も同じ会場で、6月23日（日）に開催する予定です。

挨拶を述べる米村会長

大使に代わり祝辞を代読されるキンニラソー公使

平成30年度総会議事進行中

踊り子と 左イイキン右イーイーミンさん

集合写真、今年も途中で退席された方が沢山おり、残念。

ミャンマー祭り盛況のうちに終了。暑さにも関わらず予想以上の来客。

中断していた芝増上寺でのミャンマー祭りが、6月30日（土）、7月1日（日）の両日にわたって開催された。梅雨時で雨が心配されたが、梅雨明けが例年になく早く、両日とも快晴で猛暑であった。会場は人でいっぱいになった。

我が友好協会は、フルスペースのブースを確保しPRに努めた。ヤンゴン在住の平尾友里さん提供の「タナカの石鹸」は、初日の午後、直に売り切れになってしまった。また、ブース内に多くの観光案内の写真を掲示し、存在感をアピールした。

中央土木のミャンマー人社員

和太鼓に興じる

駐日ミャンマー大使

安倍昭恵さん

ブース内の様子

本部だより

＜当協会2018年3月以降の活動をお知らせします＞

理事会　開催

日時：2018年3月3日（土）15：00 ～ 17：00
場所：友好協会東京本部会議室（新宿）
議題：ミャンマー映画とシンポジウム報告
　　6月総会準備
　　ミャンマー祭り参加準備
　　地方支部活動
　　新規事業
　　JMEIC ヤンゴン開催経済セミナー
　　その他

ミャンマー経済・投資センターのセミナー　開催

日時：2018年3月12日（月）15：00 ～ 17：00
　　（受付開始：14：30）
会場：ホテルグランドヒル市ヶ谷
　　「真珠の間」（東館3階）
住所：〒162-0845
　　東京都新宿区市谷本村町4-1
講演①
「ミャンマー人材採用と育成のポイント－実例から見る日本への採用方法と受け入れの注意点」 J-SAT代表　西垣 充氏
講演②
「ミャンマー人材育成支援産学官ぷらっとフォームについて」三菱商事経済協力部長　渡邉 泰明氏

ミャンマー経済･投資センター主催　JMEIC第49回例会を開催

2018年4月19日、ホテルグランドヒル市ヶ谷に於いて第49回例会が開催され、講師の方を含め約50名超が参加し盛況のうちに終了致しました。ご多忙の中、ご参加ありがとうございました。

前半は、ミャンマー新投資法および1914年に制定された会社法改正について、森・濱田・松本法律事務所武川弁護士からお話をうかがいました。

後半は、ミャンマー日本人材開発センターに5年チーフアドバイザーとして勤務され、人材の育成、交流に尽力された金丸さんから活動の報告をしていただきました。

今後も引き続き、当センターをご愛顧くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

15：00　開会挨拶
15：05 ～ 15：50　　講演①
「ミャンマー投資法と会社法改正のポイント」森・濱田松本法律事務所　武川丈士氏
質疑
16：00 ～ 16：10　休憩
16：10 ～ 16：50　講演②
「ミャンマー人材育成と人材交流」JICAミャンマー日本人材開発センター元チーフアドバイザー　金丸 守氏
質疑
16：50 ～ 16：55　報告
ミャンマー中小企業セミナー、ビジネス交流会　ミャンマー経済・投資センター理事長　米村 紀幸
17：00　閉会挨拶

理事会　開催

日時：2018年4月28日（土）
　　15：00 ～ 17：00
場所：友好協会東京本部会議室（新宿）
議案：決算報告、事業報告、総会準備、
　　ミャンマー祭り、支部活動　他

「ASEAN最新事情講座：ミャンマーの今後の発展と課題」を開催

日時：2018年5月22日（火）
　　午後3時～ 5時10分
会場：日本アセアンセンター アセアンホール
　　東京都港区新橋6-17-19　新御成門ビル1F　アクセス
主催：一般社団法人日本ミャンマー友好協会
共催：国際機関日本アセアンセンター
対象：ミャンマーとのビジネス交流に関心を持たれる方
定員：100名
参加費：無料

役員会　開催

日時：2018年6月9日（土）17：30 ～ 19：30
場所：日本倶楽部
議題：1　決算書・事業報告書承認
　　2　予算案・事業計画案
　　3　役員の補充
　　4　総会の準備　ほか

ヤンゴンだより

現地テレビで紹介されました! ミャンマー経済・投資センターのセミナー成功裏に終わる

当友好協会のJMEICが去る3月19日、ミャンマー商工会議所タワーで開催したビジネスセミナーの様子がテレビで大々的に放映されました。画面は演壇の米村紀幸会長と会場の様子です。成功裏に終わったことが分かります。

日本、ミャンマー両国の中小企業のビジネス交流を促進 ミャンマーで現地参加も可能なセミナーが開催されました

ミャンマーは、2013年3月の民主化移行以来、アジアにおける最後の残されたフロンティアとして、世界の注目を浴びています。日本からも、政府、民間から多くのミッションが派遣されており、ミャンマー進出企業は、この5年間、5倍と急増しております。

ミャンマー経済・投資センターは、ミャンマー側関係機関、日本側企業の協賛を得て2015年1月以来、毎年、ヤンゴンあるいは、マンダレーにおいて中小企業セミナーあるいはビジネスマッチングを開催してきました。

今回は、2018年3月19日、ヤンゴンにおいて中小企業セミナーを開催しました。ミャンマー側との相談のうえ、中小企業金融を中心とする政策セッション、中小企業によるプレゼンテーション、ビジネス交流会などビジネスセッションの2パートを計画しました。

主催：
<日本側>
ミャンマー経済・投資センター（JMEIC）
<ミャンマー側>
工業省中小企業局、ミャンマー商工会議所連合会（UMFCCI）
協力：
<日本側>
中小企業基盤整備機構、日本貿易振興機構、国際協力機構、東芝国際交流財団、富士ゼロックス株式会社、株式会社エヌ・エヌ・エー
日時：2018年3 月19 日1時～ 5時
場所：ミャンマー商工会議所連盟本部（UMFCCI）No.29, Min Ye Kyaw Swar Road, Lanmadaw Township, Yangon, Myanmar.

日本と共同で計画…ヤンゴン･マンダレー鉄道　整備事業

日本と共同で支援しているミャンマー鉄道に関して、計画がいよいよ具現化しつつあります。これに伴って、効果も想定できるようになって参りましたが、反面、問題や課題も浮かび上がってきました。

この様な中で、それら問題などを克服しつつ具現化への活動も本格的になり、多忙にしています。

◇ヤンゴン環状鉄道改善は2021年頃から改善が顕著に現れ、2022年には完成し、2015年の輸送量73,100人/一日が263,000人/一日に改善される予定。

◇ヤンゴン～マンダレー間620kmの鉄道整備・近代化は2024年末に完成し、現行到達時間が約16時間かかっているところ、約8時間になる予定です。その内、ヤンゴン～トング―間265kmは2022年末に完成し、従来の6時間21分から約3時間で到着できるようになる予定です。
勿論、単にスピードアップするだけではなく、ATS（自動停止システム）なども整備され、安全性、快適性と駅の近代化及びサービス向上も図られる予定です。

◇他方、ヤンゴン市の新しい都市鉄道に対するF/S（feasibility study=実現への調査）も近々に日本が実施します。
今回、再びヤンゴン～マンダレー鉄道整備事業（フェーズⅡ）の広報動画がJICAで完成され、You Tubeにアップされましたので紹介致します。是非、参照下さるようにお願い致します。
日本語 https://youtu.be/GWH4w0hotAA
英語　https://youtu.be/yYilIdKRVOo
国土交通省ミャンマー鉄道改善委員会（委員）
（一社）日本ミャンマー友好協会･副会長
高松重信

関西支部ニュース

高野山へいらっしゃい!
ビルマ（ミャンマー）ゆかりの寺、成福院（じょうふくいん）で今年も戦没者慰霊祭

世界遺産に登録されて10年以上になる和歌山県、高野山。たなびく朝もやの中に立つと、下界とは隔絶した天空の宗教都市といった感を深くします。

それであってか、ここ数年、欧米のバックパッカーが増え、山上行ケーブルのアナウンスは日本語のほかに英語とフランス語が流れます。食堂のメニューも英文併記、宿坊によっては外国人が多いところも珍しくありません。リピーターも多く、金堂や根本大塔、寺院や深い森林に囲まれた独特の宗教的雰囲気が異邦人の琴線に触れているのかもしれません。

標高900メートル、ケーブルの終点であり始発でもある高野山駅。ここから奥の院行きのバスに乗り13分、蓮華谷で下車。すぐ前に朱塗りの鮮やかな三層八角の塔が忽然と現れます。成福院・摩尼宝塔（まにほうとう）です。

ここにはビルマ方面戦没者をお祀りしてあります。高野山の中央部に位置する成福院は、いつの頃からか親しみをこめてビルマ寺といわれるようになっています。内陣にはビルマ由来の釈迦像や、外陣には贈呈されたビルマの高僧像などが建っています。

今年も7月14日（土）が前夜祭、墓前祭、15日（日）2日間にわたり慰霊大法要が開催されました。今回で53回を数えます。法主は仲下瑞法猊下。

かって、この慰霊祭の世話人として日本ミャンマー友好協会の関西の理事さんが何人か参画されていました。前夜祭では若人と夕食を共に楽しく懇談したものでした。ミャンマーの女子留学生の踊りを鑑賞されながら今の日本の平和な姿に「よかったよかった」と満悦されていたことが印象に残っています。悲惨なインパールでの戦いの様子などは、殆ど話をされませんでした。この奇跡の帰還兵の皆さまも100歳を迎えられ、次々と旅立ってゆかれました。時の流れとは云いながらまことに哀惜の念に堪えません。

高野山ではここだけ、八角形の摩尼宝塔

また8年前までミャンマー協会・関西支部行事として4月に「水かけ祭り・一泊研修」を数年にわたり実施、都度成福院様には大変お世話になりました。ミャンマーからの留学生が対象でしたが大変好評でした。、その折にも必ず参加されていたのが帰還兵の皆様でした。

これを機に高野山へのご参拝をお勧めする次第です。
<宿坊 藤之坊 成福院 0736−56−2109>
関西支部：松尾義久

慰霊前夜祭で踊るミャンマーの
社会人、留学生（成福院講堂にて）

ミャンマー国有鉄道OB会への参加およびミャンマー鉄道の革新（希望の星）

（一社）日本ミャンマー友好協会・副会長
JICAミャンマー鉄道政策＆技術顧問
高松 重信

私とミャンマー国鉄との親交は今年で36年になります。この中で、JICAからミャンマー鉄道政策及び技術顧問として数年間派遣されることになっています。そこで、今回、ミャンマー鉄道OB会への参加とミャンマー鉄道の整備・近代化について紹介します。

前列右から高松、元局長、元総裁

■ミャンマー国鉄のOB会■

ミャンマー国鉄の元管理者で組織されている「朝食会」が月に1度毎月第2週目の土曜日にYangon市で開催されており、現地では【Myanmar Railway Gathering】称されている。この会には現役の鉄道関係大臣、副大臣、国鉄総裁、副総裁、局長なども参加される場合もあります。

私は従来から、この朝食会に招待されていましたが、諸般の都合でなかなか参加できなかったが、ようやく2017年10月14日（土）参加させて頂きました。約40名の方々が参加されており、お互い頭部は涼しく見える年代になっていますが、懐かしい方々にお会いでき、旧交を温めました。何処の国も同じく、鉄道員方々はやはり、鉄道の話に花が咲きます。

我が国はミャンマーに対して、戦後賠償もあり、また、大変に親しい国であったから、当時のビルマ（現ミャンマー）国鉄へも物心に亘り少なからずの支援をしていました。

彼らは、それら支援のことをよく覚えていて、「あの酒の強い日本人は今どうしているか」また「日本で学んだことが大変に役にたった」「日本はメンテナンスが行き届いているから、機関車のエンジンは新品に取り換える必要はない。ミャンマーでは15年で取り換えている。無駄なことをしている」などと多くの参加者各位が話されました。お互い鉄道員同士でありますから、国籍を離れ、肝胆相照らす話合いとなりました。朝7時30分より開始され、約2時間半の誠に楽しい一時を過ごさせて頂きました。

ふっと見ると、各テーブルの上にはお菓子の空き缶に何やらミャンマー語で書いた入れ物がおいてあった。その意味を聞いてみると、ミャンマーの鉄道員OBの中には不幸にして貧しくなっている方々もいる。そこで、それらの人への支援として「募金」を募っているとのことでした。数か月に一度その募金を該当する方々に渡しているとのこと。ここ一年くらいに支援した鉄道員OBの人名がリストアップされていた。

私は、何か言い知れぬ、感動を受けました。流石に佛の国ミャンマーであると思いました。また、確かにミャンマーの鉄道は未だ十分な機能と役割を果たしてはいない、しかし、ミャンマーでは珍しく団結力のある組織であると認識していました。その一因がこのような活動にもみられるのではないかと思いました。誠にミャンマー国鉄は【強い絆で】結ばれていると再認識した次第です。

翻ってみれば、我々旧日本国有鉄道も同じように団結力の強い集団でもありました。

【轟け鉄輪、我が此の精神、輝く使命は儼たり、響けり・…。】私は何故か、作詞：北原白秋、作曲：山田耕筰であるこの「鉄道精神の歌」が頭をよぎりました。先の大戦で国鉄職員も召集され、不幸に戦死された方々もおられた。そのご家族の救済として、それら方々の奥様方に物資部および鉄道弘済会で仕事ができるように当時の国鉄は配慮していました。

■ミャンマー鉄道の改善及び近代化■

我が国が支援しているミャンマー鉄道の改善及び近代化として最も近日的な事案は二つあります。一つはヤンゴン環状線の改善であり、他はヤンゴン～マンダレー間の鉄道整備です。今回は紙面の都合でその内の後者を説明致します。

ミャンマーとって最も重要な線区はヤンゴン～マンダレー間620kmです。この区間の鉄道改善及び改革の主な内容は次の通りです。レールの敷きなおし（50Kgロングレール）、土床整備（やり直しも含む）、駅間は閉塞信号システム、DEMU（Diesel Electric Multiple Unit）約200両の投入、これらは全て、我が国のODAであり、それらの工事も我が国の企業が受注し、ミャンマーのサブコントラクト（現地企業）を指導し、

それらの工事を施工します。恐らく合計7000人近いミャンマーの人達が数年間働くことになるでしょう。ミャンマへ其れなりの技術も移転します。今回のこの事案で我が国企業とミャンマー企業の合弁も見ています。

ミャンマー国鉄事態は駅改善及びその技術&技能、Management、Engineeringを学ぶことになっています。

その区間のPhase1としてYangon～Toungoo（トング）、多分ネピードまでの320km区間は2021年に完了する予定です。

この世界レベルに近い鉄道の完成により、現在、同区間の到達時間が8時間から4時間に、しかも安全で快適な運行になるでしょう。最大都市（人口約500万人）と首都ネピード320kmを鉄道で日帰りが可能になります。これはミャンマー鉄道の革新になります。この鉄道の革新により市民生活の向上及び産業・商業の発展に貢献するばかりでなく、鉄道は文化及び人々の思考にも少なからず影響を与えますから、このPhase1の完成により、ミャンマーは植民地及びその後の時代も含めて長い長いトンネルに入っていた其の桎梏の頸木の中から、ようやく「夢と希望と自信」もつて前に向かって進むことになるであろうと期待している次第です。

今後は引き続きヤンゴン市内の南北・東西都市鉄道、空港線、他国を跨ぐ鉄道の新設及び高速鉄道へと続くでしょう。（おわり）

ミャンマーで日本が鉄道の近代化を支援

2018年6月16日 16時17分 NHK夕方ニュースで報道されました

鉄道の老朽化など、インフラの整備が課題となっているミャンマーで、列車の運行に関わる業務を自動制御できるシステムが、日本の支援で導入され、16日、両国の政府関係者が出席して引き渡し式が行われました。

ミャンマーの最大都市、ヤンゴンの中央駅で行われた式典には、タン・ズィン・マウン運輸・通信相や、丸山市郎ミャンマー大使など、両国の関係者が出席しました。

新たに導入されたシステムは、信号機とポイントの切り替えをコンピューターで自動的に制御することが可能で、これまで人の手に頼っていた旧式の設備よりも安全性や効率性が大きく向上します。

ミャンマーは、高い経済成長が続く一方で、インフラの整備が遅れていて、鉄道の分野では、車両などの設備の老朽化や線路の補修の不備が列車の遅れなどを引き起こし、大きな問題となっています。

このため、日本政府は、最大都市ヤンゴンと、中部にある商業都市マンダレーを結ぶ路線で1000億円を超える円借款を供与するなどして、車両や設備の更新、線路の補修といった鉄道の近代化を支援しています。

JICA=国際協力機構ミャンマー事務所の唐澤雅幸事務所長は、「鉄道や道路インフラの整備を通じて、ヤンゴン都市圏の成長を促し、地方にも成長が行き渡る支援をしていきたい」と話しています。

<写真はNHK WEB NEWS より>

特別寄稿

ナチャンさんの泉

佐々木 晃一（当会会員・神戸市北区在住）

建築士の佐々木さんがふと訪れたミャンマー、シャン州のラショー。生活用水に困っている奥地の村々を見かねて支援ボランティアを開始。孤軍奮闘！山中でゲリラと遭遇しながらも各地で井戸を掘り続け18年、その生々しい体験記である。タイトルの“ナチャンさん”は今中国に捕らわれている。

ナチャンさんと娘（ロエタ村）

2016年1月22日に、ロエタ村へ。

生活用水の水源があるとの情報がありました。村は、バスも通る半舗装された幹線道路から　急坂を上っています。キリスト教会に、小学校、幼稚園もあります。村民は500人程度です。

ロエタ村は、2007年に谷沿いで、井戸掘り工事をしています。水量は豊富で、村民に喜ばれています。

チャーターしている白タクのサニーさんの車は、露岩と石ころの道路を上り下りです。1日6万チャットのリースですが、悪路はお気の毒になります。

場所は村の入り口から南へ600mの村の高台でした。狭い谷沿いに、坂を下った右側に小さい水面がありました。水面の上に原木を引き割りした木材を渡して、二人の女性がたらいで洗濯していました。

水質は良好です。水量は5月の乾期の、終期になっても、枯れることはないと　洗濯する二人の女性は話してくれました。水源になる谷間の上流は、原始林のような巨木の森が見えました。珍しい緑が残っていました。ミヤンマーの農業は、焼き畑が主ですから山頂まで、農民は鍬を振るって耕起します。この森は、水源涵養の目的でなく残っているようです。

ロエタ村の若者は、結婚してすぐに新しい住まいを作ります。バンブーハウスです。その若者たちが新しい住宅地で湧き水を見つけたようです。

ボランティア活動には、垂涎の候補地です。表現が古いですね。嬉しくてやはり興奮気味の、日本語ガイドのニラウインさんと相談です。彼女は41歳です。2001年2月から、ガイド兼通訳として信頼しています。彼女なしでは私の活動は続きません。

私のボランティア活動の拠点は、ミヤンマーの東北地方のラショーです。1998年に外国人の入域が許可された地域の都市です。中国から250キロで、国境貿易が盛んな街です。しかし2000年当時のラショーは、危険な怖い風評の都市でした。私は2000年に一人でラショーに入りました。ヤンゴンの外国人ホテルの日本語ガイドさんは、みんな危険なところだと言って同行を拒否されました。

私は英語もミヤンマー語もだめですが、ガイドブックだけでどこでも旅行できます。でもボランティア活動は日本語の通訳が必要です。2001年は、一泊8ドル、朝食サービスつきのゲストハウスにしました。インド人街のこのホテルのフロントの女性が、日本語教室に通っていると「地球の歩き方」に紹介されていました。その翌日に、日本語ガイドのニラウインさん、25歳に出会えました。それから毎年一緒にラショーです。少数民族の生活用水の応援は、私の生き甲斐になりました。ニラウインさんと出会えたからです。

ロエタ村の住民はラフ族で、信仰はキリスト教です。水源で出会った若い女性は、ナチャンさんです。泉の斜面に近いバンブーハウスが住まいで、水源地の地主さんの奥さんでした。

垂涎の候補地ですが、整備して水場にする工事は、翌年度になりそうです。今年はメハン村の貯水槽の工事です。ラショーの滞在期間は、残り日数も不足しています。

ナチャンさん（ロエタ村）

1月25日になって、ロエタ村の泉源の整備工事が決まりました。

22日から3日すぎました。工事人のタンゴーウーさんと相談し、現場の下見もしてもらいました。ラショーの街から1時

左から筆者、ナチャンさん。右上はナチャンさんの自宅

間以上かかるロエタ村です。工事の見積書もすぐに出ました。契約は364万チャットです。手付金は半額支払います。まずは予想した金額でした。

26日からは　村民多数の人力掘削と整地が始まります。ラフ族の元族長夫人のジョネヘイさんは、村の仕切り人なので信頼できます。

1月26日は、いつもより早く亜泰ホテルを出発です。

9時すぎにロエタ村の現場に到着です。泉源周辺、谷間に村人が集まって、鍬を振るって整地作業です。人数は60人ぐらいです。戦力になる男性が半数ぐらいも集まっています。普段はほとんど女性なので、ニラウインさんもすごいねと喜んでいます。

きのうラショーのマーケットで20個買ったバケツを提供します。掘り出した土砂の運搬用です。現金収入の少ない村では、バケツは貴重品です。

タンゴーウーさんが単車で到着です。私が書いたプランを見てもらいました。私の設計は井戸枠を使う予定でしたが、泉源の地盤が浅くすぐに岩盤がでました。井戸枠のプランは失敗です。

もうこの地域に、経験のあるタンゴーウーさんにすべて委任です。

私は村の女性たちに、土砂運搬のバケツリレーを指導しました。あとは工事人のタンゴーウーさん付き切りの整地の指図がありましたので、ナチャンさんのバンブーハウスで昼寝できました。

朝晩は冷え込むラショーの昼間は気温が上昇して、1月でも30度になります。ナチャンさんのご主人はパパネさんです。今日の泉源改良工事で、泥まみれになって埋もれた巨木を引き出しています。ご夫婦には1才ぐらい色白の女の子がいます。

泉源は深さ3mに、幅と奥行5m、洗い場も広く、重機のない村でも、焼き畑農民の集団の土木作業の能力にビックリします。ぐっすりと昼寝している間に、今日の予定の整地はほぼ完了です。

お昼過ぎからタンゴーウーさんのダンプカーが、工事用の基礎石材を運んできました。次に砂にバラスにセメントです。日干しレンガが山積みです。明日の工事の準備は出来上がりです。

私のボランティアのセオリーは。

少数民族の村民に、受益者負担として工事現場の整地や、パイプ施設工事、埋設配管の掘方などの労力の無償提供をお願いしています。

今回のロエタ村の工事は、13番目の給水工事現場になります。いつも無償奉仕の代償に、菓子パンをお土産にします。今日は100チャットの菓子パン300個用意しました。

ラショーのマーケットで、少数民族の主婦の買い物を見ています。いずれも中国製の食用油に洗剤、味の素の3品です。あとは履物に子供の衣類です。食品は農家ですから買いません。菓子パンは、すごく人気があります。

1月27日です。今日は風邪を引いています。

ラショーは空気が乾燥しているので毎年風邪をひきます。体温計は初めから持込みしていません。臆病者ですから検温して熱が高くなっていたら、戦闘意欲が失せてしまいます。マスクを2枚重ねて防備します。

メハン村へ回る。2001年に作った貯水槽のメンテナンス工事の下見です。完成して16年です。再々の洪水です。貯水槽の高さは2mあったのに、埋もれて80㎝になっています。1・3mのかさ上げ工事をします。1月21日に、タンゴーウーさんの見積書金額は265万チャットです。新しい貯水槽には、屋根を付ける契約になっています。

貯水槽のレンガ積みは、セメント塗りの作業中です。天場には屋根取付工事のアンカーが見えました。メハン村の人口は、1200人でパラウン族の仏教徒です。

ロエタ村へは、途中のドライブインで昼食してから行きました。ニラウインさんにタニーさんは店屋物ですが、私は朝マーケットで買ったインデカ米のご飯に、インスタントカレーの昼食です。ミヤンマーは今年で18回目ですが、下痢をしなかったのは2015年の1回だけです

雑菌に弱くて昨年から不衛生な飲食店は避けています。今年は、いまのところ 腹具合良好です。

ロエタ村は、タンゴーウーさんと工事

源泉にブロック積み（ロエタ村）

整地のため村民集合（ロエタ村）

整地のため村民集合（ロエタ村）

人8人が、泉源の基礎工事を着工していました。村人は20人ほどで、斜面の階段や通路の整地をしています。村の女性たちが、40人ぐらい集まって見物です。私は2級建築士ですが、工事方法が分からないので、施主であって見物人です。今日もナチャンさんのバンブーハウスでお昼寝タイムです。

1月28日です。ナムチャン村へ、住民はパラウン族です。

2002年に井戸堀工事をした村です。メンテナンスのために、今迄に施工した水場を、毎年見回りしています。5年ほど前にNJOが新しい水源からパイプで給水工事をしたので、利用は少なくなっています。修理は不要でした。

次はメハン村です。貯水槽は屋根も仕上がりました。あとは給水です。パイプ工事は私の仕事です。朝からラショーで配管材料を購入しました。給水管の工事は、メハン村のウーアイウイ村長も手伝いをしてくれました。さっそくバルブを開いて、貯水槽に貯水開始です。あまり早く貯水すると、水槽がまだ固まっていないからと、村長は心配しています。少量の貯水で、給水の開始です。子供たちが集まって、プラスチックの水桶に注水しています。

ここの貯水槽には、上下に2枚の施工プレートが付きました。2016年の新しい上部プレートに、下側には古い2001年のプレートが残っています。私の16年目の記念碑になりました。

最後はロエタ村です。泉源の構造が分かってきました。泉源の後ろと左右に3mの高いブロックを積んで壁にしました。低い部分にかまちを作って、広い貯水槽にします。井戸より貯水量が多いし、釣瓶で汲み上げるより片手でも、水を容器で掬い上げることができます。ナチャンさんとパパネが、これから子供が池にはまらないからよかった、と喜んでいます　湧水地は、沼みたいなものです。子供の遊び場になるので、パパネやナチャンさんの心配はわかります。

洪水で埋もれた貯水槽（メハン村）

1月31日です。ロエタ村の貯水槽工事完成のお祝いがあります。

工事が未完成でも、私たちは2月1日に、ラショーからヤンゴンへ戻ります。ロエタ村の貯水槽の屋根も未完成です。洗い場の擁壁工事や土間のコンクリート打ちも残っています。工事の出来具合は、60%ぐらいです。滞在期間が短いので、初めから予測していました。お祝いの諸費用40万チャットは28日に、仕切り人のジヨネヘイさんに渡しました。この日はキリスト教の安息日で、お祝いは散会したあとに、貯水槽工事に働いた村人が集まって昼食会です。菓子パンもこの日たくさん仕入れています。

タンゴーウーさんにロエタ村の貯水槽工事と、メハン村の貯水槽工事の残りの金額を支払いました。彼は2枚の領収書を書きながら、ロエタ村の工事は怖いので、村長さんや世話人にビールを配ったと話しました。ラショーの市内から遠いし、ラフ族が怖いようでした。

ナチャンさんには、化粧品にカバンにコートなどのお土産のプレゼントをしました。

2017年は、やはり1月20日ごろにロエタ村に行きました。

ナチャンさんのバンブーハウスは空き家でした。パパネさんは外国に出稼ぎです。ナチャンさんは、女の子を連れてこの村に住む両親の家に同居しています。

子どもたちが水汲み（メハン村）

ナチャンさんの泉の洗い場は、水汲みが楽なのと、洗い場が広くて使いやすいので、水浴びと　洗濯する村の女性たちが群れています。村の若い女性は、単車に洗濯物や水缶を積んで走ります。設備のいいナチャンさんの泉は、水の使用が多くて、水不足になりそうです。

2018年1月26日、ロエタ村へ9時半に到着です。

村長宅に行きました。幼稚園の前の水場に、5人のシャンアーミーが水筒持って現れました。紺色の制服です。黒色のスマートな自動小銃を装備していました。少数民族軍の若いゲリラ兵士です。リュックは持ってなかった。2000年ごろは白っぽい疲れた制服に、AK70中国モデルの未塗装の白い自動小銃でした。出会うと、はにかんでいる中年の古兵ばかりでした。

今年のナチャンさんの泉は、 洗い場の拡張工事をします。洗い場は大きな毛布や寝具を洗えるようにします。土間は谷に向けて勾配を作ります。タンゴーウーさんも来ます。相談して見積書を書いてもらいます。　村の女性たちの水浴びは、着衣のままです。ここの水場は、若い女性の水浴びが多いので楽しみです??

ナチャンさんのバンブーハウスには、ご主人のパパネさんだけがいました。パパネさんは出稼ぎに行っても、お酒が好きでみんな飲んでしまったようです。だからナチャンさんは、可愛い女の子を母に預けて、一人で中国へ働きに出かけています。今年の旧正月の2月のなかごろに帰国予定です。私は今年もお会いできません。用意していたナチャンさんのお土産は、パパネに渡しました。パパネさんのバンブーハウスの棚に雉色の雌鶏がいました。抱卵中でした。

パパネさん

帰国して間もない2月21日。

ニラウインさんからメールです。ラショーの亜泰ホテル近くのユマ銀行とエヤワジ銀行で、爆発事件がありました。午後の5時頃です。女性2名死亡し、20人あまりが怪我をしました。

タロウサンは、ラショーの中国系トップの資産家ですが、反政府組織から多額の献金を要求されている噂があります。ユマ銀行は、献金に対応しないので組織から報復を受けています。タロウサンは、50才ぐらいです。2005年頃に、私のボランティアする車に同乗して少数民族の集落を回りました。彼はラショーに住みながら、周囲の異民族の居住地域に行ったことがありません。中国系やインド人は、少数民族を搾取するので嫌われています。タロウサンは、日本人の私の車なら中国人も安全だと確認して、2年間は一緒に集落を回りました。彼は、毎晩のように電話を掛けて来ます。1時間ぐらいニラウインさんと話します。私は日本語オンリーです。

2018年3月14日16時42分。

ニラウインさんからのメールです

「佐々木様へ、奥さんが旧正月帰りに中国で捕まったそうです。そのため旦那さんが中国へ行っていると工事人がいいました。ロエタ村の村長にメールしました。状況確認をお願いしましたが連絡がありません。私がメールしても電話にでないです。こまりますな。ニラー。」

3月14日17時23分。

ニラウインさんから、今日またメールです。

「あの夫婦のところ工事人が行ってくれましたが、今日、村長や叔母さんたちへ繋がらないこと伝えました。あの村の北の村は治安悪いです。では、ラショー市場で村のあの叔母さんたちとあうとき、きいていただきたいといいました。ニラー。」

5月8日12時04分。

ニラウインさんからのメールです。

「佐々木様へ　おはようございます。ヤンゴンは非常に暑いです。佐々木様はお元気でいらっしゃいますか。ラショーのロエタ村、ラフ 族のあの奥さんは逮捕されて、まだ解放されてないと、村長のサンニさんがいいました。なんとか国境の警察や、イミグレションや政府や、どこか関係者を探してたすけてもらってくださいと、私は村長へ頼みました。ヤンゴンは39℃です。外出たくないです。ニラー。」

6月9日15時23分。

ニラウインさんからのメールです。

「佐々木様へ。こんにちは、あのロエタの奥さんのこと聞きたいので、村長へ電話しました。電話切ってあります。ニラー。」

6月9日の夜、ニラウインさんに電話を掛けました。

ナチャンさんのことを詳しくききました。

中国人のブローカーが、ミヤンマー人を集めます。中国の入国手続は正式な書類です。帰国するときは、中国の会社は帰国させたくないので、出国の手続きを拒みます。パスポートも取り上げています。ナチャンさんは帰国するために、出国手続の不備のままに、ムセの国境の税関で逮捕されたようです。

日本人経営者も、以前も今も、外国人労働者を違法に働かせている事実があります。ただ日本の場合は情報システムが有効に動きます。中国の社会は昔からいまも、官僚は賄賂社会です。中国の軍人社会も共産党も。例外はアジアでは、豪州とニュージランドに日本は少しマシです。共通点は、所得が多いのと潔癖性と、島国だからでしょうか?

ナチャンさんは、2月から4ヶ月も拘束されています。税関は、中国人の企業が悪いのが分かっています。賄賂が優先しています。ミヤンマーの貧乏な少数民族を逮捕して、釈放を求めるパパネさんに、罰金を払えと要求した筈です。

ロエタ村など、シャン州の少数民族は、2008年ごろから市民権の登録がありました。ICカードの交付です。出稼ぎは、中国を嫌ってタイランドでした。パパネさんも、中国だったのかな。最近は近距離で旅費が安いから、貧しい人が行きます。

ナチャンさんは嫌いな中国へ、行きたくないのに行きました。貧しい暮らしを少しでも良くしたいのです。可愛い女の子を、お母さんに預けて行きました。いま中国で捕らわれています。私は悲しいです。

〈2018・6・22記〉

幼稚園の庭でパンの配布を待つ村人。前から4人目が筆者

ドキュメント・ミャンマーありのまま

レド公路、援蒋ルートを行く②
―中国の影響を探る―

（一社）日本ミャンマー友好協会専務理事
ミャンマー経済・投資センター理事
中小企業診断士　**都築 治**

第二次大戦中、米英軍がインドから昆明に軍事物資を送るための援蒋ルート。それが日本軍によって遮断されたことで戦闘が始まった。今から76年前のこと。その跡をたどる旅である、マスコミで報道されることの少ないミャンマー版「街道をゆく」。

2. バモー

バモーの河川港はマーケットのすぐ近くにある。10数年以上前から、中国はバモーに注目しており港の整備を一生懸命にやっているとのメディアの報道があった。以前日本商工会議所の研究会で、その後バモーはどうなったかと雲南大学の先生に問うたことがある。彼は、プロジェクトは全然進捗していないと言っていた。全くその通りで、その時からでさえ何年も経っているが、港の整備はほとんど進んでいなかったし、中国の交易船らしきものは見られなかった。日本のメディアの報道が、実にいい加減なものかがここでもよく分かる。バモーは戦略上の要所で、簡単には中国側の言いなりにはならないというミャンマーのしたたかさが窺われる。

次に行った所は中国寺院である。12支の像が建物の前に見られた。蛇がコブラであったり、羊が山羊のような形をしているのが日本と異なる点である。

協会会員であった伊藤京子さんの「ミャンマー 東西南北・辺境の旅」に載っているサンパナゴにも行った。シャン国の勢力がここまで及んでおり、当時藩王（ソーブワー）がここに領主として居住していたと言う。現在はその面影はないが、パゴダや僧院が建っている。カチン州では、カチン族よりもシャン族の方が、実は人口が多いとのことである。

浅野君の希望で華人基督協会にも寄った。日本のメディアでは、ミャンマーには信仰の自由さえないと報道されることが多いが、ここカチン州では、各宗派のキリスト教、イスラム教、仏教などが仲良く共存している。当時、いがみ合っているような様子は窺われなかった。

3. ムセ

バモーを出発したのは10時で、ナムカンには18時20分、ムセには19時に着いた。前回の時は雨季であったにもかかわらず、バモーからムセまで6時間の行程であった。今回は9時間も掛ってしまった。運転手が平均時速15km程度で走ったからである。何度も何度も早く走れと怒鳴りたくなったが、じっと我慢をした。多くの車やオートバイがすいすいと追い越して行く。前回と比べて対向車が沢山走っている。古い車ではあるが、廃車寸前の車ではない。経済力の向上が感じられた。

このノロノロ運転のために、ナムカンに着いた時はすでに暗くなっており、街の景観がはっきり見えなかった。ナムカンの街の様子を確認することは、今回の旅の目的の一つであっただけに気分の悪いこと限りなしである。今回は乾季の旅で、バモー - ムセ間は 5 時間と見積もっていただけに、9 時間も掛かるとは予想だにしなかった。

地図を見れば分かることだが、ミッチーナー - バモー間よりもバモー - ムセ間の方がはるかに短い距離である。ガタンガタンすることがお客に悪いと運転手が考えていたか、自分の車が傷むのを嫌がっていたからか、どちらとも判断が付かない。

道路の整備状態は前回と変わらないが、道路幅は倍ぐらい広くなっていた。

前回は雨季で、何台の車がぬかるみで動かなくなっていた。我々の車はボンコツ寸前の 4 輪駆動のジープであったが、動かなくなった車をそのたびに引っ張ってやったものである。ガタガタの道を40ないし45km程度スピードで走った。そのために、シャフトにひびが入ってしまったことだった。

イライラのためホテルに着いても食欲がなく、夕食を食べることなく寝てしまった。

23日（水）、ムセで泊まったホテルは、中国国境のゲートに程近い所にあるトゥインスター・ホテル（玉合大酒店）である。このホテルもバスタブはなく、シャワーのみである。ミャンマーではバスタブのないホテルが多く、風呂好きの日本人にとっては、地方回りはつらい旅かも知れない。7時に朝食を取り、街を散歩する。ホテルのすぐ近くに国境のゲートがある。前回見たゲートとはすっかり様変わりしている。中国の経済発展が垣間見える。

ゲートで中国側の写真を取ろうとした

（2011年3月）

が、守衛さんがノーの合図をする。こんなことで諦める私ではないので、少し離れた所からカメラを望遠側に設定して堂々と写す。中国側は高層ビルが何棟も建っており、近代的な街並みとなっている。これに対してミャンマー側には高層ビルはなく、建物の外観もやや貧弱である。好調（?）な中国経済を反映してか、国境貿易でムセは賑わっていた。

多数のミャンマー人が、ゲートの近くにあるイミグレーションで許可を得てゲートを通り抜ける。ミャンマー側には、貿易に関連する多くの店や事務所がある。

ヤンゴンと比べるとムセは寒い。ほぼ全員が長袖の着物を着ている。黒っぽいものを着ている少数民族の出稼ぎらしい人も多く、またズボンの折り目がないので、日本のテレビで見る北朝鮮の人みたいに貧乏人らしく見える。まだ服装が洗練されていないからしい。中国人と比べるとその差が一目瞭然である。然し、彼らの服装だけで判断してはならない。つい最近まで人里離れた山の中で暮らしており、ファッションに縁がなかっただけかも知れない。

（1999年8月）

9時にチェック・アウトしてムセの市街地に向かう。ムセの中心地は国境のゲートから少し離れた所にある。ムセの街はすっかり変貌していた。近代的な建物が何棟も見られ、各商店の品揃えも格段に充実していた。ムセでは保温・保冷用のステンレス製のジャーと容器を購入した。それぞれ1500kであった。別の店では女性用の財布を2万8千kで購入した。中国人用の土産品とミャンマー人向きの商品は何点か見られるが、日本人が欲しいような商品は余り見られない。ヤンゴンからは遠く、バガンやインレー湖などの観光地とは違い、外国人観光客はほとんどやって来ないからであると考えられる。車は、ムセで別のものと交代した。ムセにはミッチーナーの旅行社の女性経営者が、無事を確認するためにバスでやって来ていた。

今回の最大の目的はムセの変貌状況を確認することであったので、予想通りに街は発展しており、感慨を新たにした。前回訪れた時は、日本製の偽物とおぼしき電気製品などが多く見られたが、今回はファッション関連の商品が多く見られた。オートバイの価格は中国製8万円、日本製15万円程度らしい。　（つづく）

（公財）近江八幡市国際協会主催
「多文化まるごと講座・ミャンマー編」開催

岡 晃市
（当会会員・滋賀県蒲生郡在住）

数か月前、私が所属する財団法人近江八幡市国際協会から、近年発展著しいミャンマーを同協会の主力活動である「多文化まるごと講座」に、是非取り上げたいとの依頼があった。この講座は、市内在住の外国人を通じ、その国の暮らしぶりや文化を紹介すると共に、お国自慢の料理を参加者全員で調理し、一緒に食べながら交流し理解を深めると言う企画で、毎回好評を博している。

早速、日頃懇意にしている同市在住のミャンマー人ご夫妻にご協力をお願いし企画を練った。

2018年7月8日(日)10：00、会場となったG-netしが男女共同参画センターで、「多文化まるごと講座・ミャンマー編」が開催された。

数日前から十数年に一度と言われる豪雨が西日本で猛威を振るい、甚大な被害が出た最中の開催とあって、参加者の欠席が危ぶまれていたが、この日は天の助けにより朝から好天に恵まれ、子供さん達を含め27名の参加となり、私

も含め運営スタッフはほっと胸を撫でおろした。

当日のプログラムは、10：00から第1部「ミャンマーの暮らしと文化」、講演：岡晃市。11：00から第2部「ミャンマーカレーとおつまみ」の作り方、調理指導：ウィンさん、メイさんご夫妻。12：00から「交流会」という内容であった。

定刻の10：00、同協会の塚本会長によるご挨拶の後、私が担当する第1部のプログラムがスタート。パワーポイントを使いながら、約1時間ミャンマーの基本情報や食べ物、特産物、主要な年間祭事、仏教、ファッション、市場動向など多岐に渡る情報をスクリーンに投影しながらご紹介させていただいた。参加者の皆さんに、ミャンマーについて知っておられる事や関心のある事をお尋ねしたが、一部の方から「ロヒンギャ問題」「反政府の少数民族問題」などの発言があったものの、殆ど「未知との遭遇状態」であった。

講演の内容に応じ、同席いただいたウィンさん、メイさんご夫妻には民族衣装（注1）の紹介や着付けのレクチャー、また、ミャンマーの伝統的な化粧品「タナカ」（注2）の実演をしていただき、子供さん達を始め皆さん興味津々で大いに盛り上がった。

今回の講演を通じ、ミャンマーについて一般市民の方々の理解が如何に少ないかを痛感させられたと同時に、当協会におけるミャンマーの積極的な認知活動を市民目線で行う必要性を感じた。

11：00から1階の調理室へ移動し、ウィンさん、メイさんによる第2部のプログラムがスタート。

今回の企画にご協力いただいたご夫妻はヤンゴン出身で、ご主人のウィンさんはダゴン大学卒業、来日6年目。奥様のメイさんはヤンゴン大学卒業、来日10年目で日本語が堪能。とても気さくで真面目なお二人である。

早速、メイさんが流暢な日本語で、「ミャンマーカレー（チェッター・ヒン）」（注3）と「いりこのおつまみ」（注4）のレシピを紹介。皆さんは5つの調理テーブルに分かれ、今まで食べた事のないミャンマー料理とあって、期待に胸膨らませながら作業を開始した。ご夫妻は各テーブルを回って、気軽にアドバイス。料理を介してお互いの理解と交流が深まっていった。

12：00から、完成した「ミャンマーカレー」と「いりこのおつまみ」、追加メニューの「マンゴー入りヨーグルト」を食べながらの楽しい交流会が始まった。テレビや新聞社の取材記者も一緒に仲間入りし、珍しいミャンマー料理に舌鼓を打ちながら、ミャンマー談議に花が咲いた。

子供さん達もすっかり完食し、母親にまた作って欲しいとおねだりしていた様子が印象的であった。

講座終了後にとった国際協会のアンケートによれば、「パワーポイントの映像と共に詳しい国情、歴史、文化、その他を丁寧に話してくださり、良く理解できました」「「タナカが欲しいです」「ミャンマー語を習いたいです」「ウィンさん、メイさんはとてもフレンドリーで、料理も大変美味しかった」「初めて味わったカレーで、とても美味しかった。また、自宅で作りたい」など多くの好評をいただいた。

こうして、今回の「多文化まるごと講座・ミャンマー編」は無事終了しましたが、今後、近江八幡市を中心に、多くの方々へミャンマーの情報発信を行いたいと願っている。

現在、近江八幡市役所によれば、同市在住のミャンマー人は総数30名、所帯数は29。その多くは研修生で、圧倒的に女性が多いそうである。

注1）下記右下の写真のお二人が着用しているのが、ミャンマー人が日常的に愛用する腰布状に縫った「ロンジー」。ロンジーは職業や民族によって柄や色合いが異なり、素材は主に絹や木綿が多い。

注2）タナカは柑橘系の木の幹を石皿ですりおろした粉。これを水で溶き、顔や腕などに塗ると甘酸っぱい香りと清涼感があり、日焼け止めや虫よけの効果がある。ミャンマーでは殆どの人が愛用している。

注3）ミャンマーカレー（チェッター・ヒン）

ミャンマーでは「チェッター・ヒン」と言って副菜の一種。「チェッター」は鶏で、「ヒン」は副菜の意味。すなわち鶏肉入りカレー風味の副菜で、主食の米（インディカ米）の上にかけて食べる。

タイ料理程からくはなく、日本人には食べやすい味である。ミャンマー料理は特に油を多用するのが特徴だが、スパイスの種類はインド料理よりも少ない。

注4）ミャンマーのおつまみ。（ガチャウチョウ）ミャンマーの一般的なおかず。日本人なら酒の肴にピッタリ。市販のいりこと揚げ玉ねぎを炒め合わせ荒挽き唐辛子、塩、味の素で味付けしたシンプルなおつまみ。調理は簡単で、栄養もあり病みつきになりそうな一品。

.左：国際協会塚本会長
右：挨拶する筆者

講演する筆者

パワーポイントでミャンマーの
暮らしと文化を紹介

.熱心に聴講する皆さん

ご夫妻が民族衣装の着付を
レクチャー

大好評！「タナカ」の実演

調理を指導するご夫妻

グループに分かれ、
熱心に調理する皆さん

ミャンマーカレー
（チェッター・ヒン）

いりこのおつまみ
（ガチャウチョウ）

入会のご案内

専務理事　都築 治

当協会は1970年設立以来、ミャンマー(当時ビルマ)との友好親善に心血を注いで参りました。その歴史のほとんどは外務省所轄の社団法人としての活動でしたが、法の改正により、2012年「一般社団法人日本ミャンマー友好協会」として再出発いたしました。

当協会は外務省のご指導の下、外務大臣あてに旧団体「社団法人日本ミャンマー友好協会」解散の手続きを行いました。外務省の監理こそなくなりましたが、当協会は外務省から認知されている唯一のミャンマー関連団体です。

2015年、当協会は組織を大幅に変更し、従来関西にあった本部機能を東京に移しました。名義上の本部所在地は関西のままですが、これにより諸活動が機動的になり、各機関・団体との交流が以前にも増して活発になりました。

また協会本来の活動も、2015年秋東京・芝増上寺での緬日合作映画「にっぽんむすめ」上映、2016年春「ミャンマー鉄道の旅」開催、民間伝承「ナッ大祭」共催など、活性化しています。

今号の記事をご覧いただければわかりますように今後とも、粛々と日本とミャンマーとの友好親善活動を続けて参ります。

ミャンマーはますます魅力的な国になろうとしています。当協会に入会され、ミャンマーとの友好親善活動に参加なさいませんか。会員一同、仲間が増えることを心から楽しみにお待ちしています。

一般社団法人日本ミャンマー友好協会
Tel：03-6380-0409　FAX.046-224-3011　http://jmfa-main.com/
*連絡先：専務理事 都築 治 TEL080-9080-6001 E-mail tzkosm@abelia.ocn.ne.jp
*振込先：三菱UFJ銀行 新宿新都心支店 普 0376654 日本ミャンマー友好協会 都築 治
*ご注意 当協会は南品川、名古屋にある全く同名の団体とは別組織で、人的な交流等はありません。

〈切り取り線〉

入会申込書（FAX.046-224-3011）

（一社）日本ミャンマー友好協会の活動の趣旨に賛同し、下記の通り入会を申込いたします。

ご氏名	フリガナ	住所	〒
ご職業			
ご連絡先	TEL：　FAX：		
	E-mail：		
年会費	学生3,000円、一般10,000円、法人50,000円		

表紙に寄せて　～タナカさん?～

頬に白いものを塗っているミャンマーの人たち。小さな女の子から若い女性にいたるまでで普通にみかけます。一見お化粧を落とし忘れたかのように見えますが、これは「タナカ」といって強い日差しから肌を守る日焼け止めなのです。

みかん系のタナカという木を摺ってペースト状になったものを直接顔に塗ります。さわやかな香りで保湿作用もあり美容にもよいそうです。好みによって木の葉の模様にしたりして塗っている人もあります。いわば天然化粧品といったところです。男性でも塗っていることがあります。意外なことに、このタナカはミャンマー独自の文化のようです。発音も日本語と同じなので親しみを覚えます。

（編集子）

会費納入のお願い

当協会も新体制のもと、順調に運営を始めています。会費未納の方は下記新規口座に納入をお願いいたします。

<年会費> 個人　10,000円
学生　3,000円
法人　50,000円

<振込先>
三菱UFJ銀行 新宿新都心支店
普通0376654 日本ミャンマー友好協会　都築治

会員増強をいたしております。お知り合いにミャンマーに興味のある方ございましたらご勧誘ください。

イラスト：とみざわ　えりこ

ミャンマー友好イベントでのミャンマー映画の上映に際し、協賛して頂いた企業の皆様です。大変ありがとうございました。

FUJI xerox
KOJIMA 株式会社 小島組
ANA Inspiration of JAPAN
中央土木株式会社
F&P フクダ・アンド・パートナーズ ONE MORE TRY! CO-SOURCING REAL PARTNER
スリーエル株式会社 3LLL.co., ltd.
NiKKi Fron Since1896
戦略経営のベストパートナー 経理バンク
EVERSEIKO
米粉製粉設備のことなら 西村機械製作所 NISHIMURA MACHINE WORKS CO.,LTD.
グローバルビジネスサポート株式会社
株式会社 ブヨウ

編集後記 “ヤダナー” [yadana]

“文化協会報”から“友好協会報”へ

この写真は21年前の会報第100号記念号の表紙です。

平成9年（1997年）1月号、竹帽子をかぶったシャン族の親子のショットを写真家の兵頭千夏さんがモノクロで撮ったものです。（シボーにて）となっています。

会報名は『日本ミャンマー文化協会報』。B5サイズで36ページでした。当協会の発祥は京都と思っていましたが発行の住所を見ると、なんと事務局は新大阪駅に隣接したワンルームマンションの一室でした。（後に京都商工会議所内に移ります）

当時の発行人は会長の塚本幸一さん（ワコールの創業者）、編集人は理事の桑原真一さん。お二人ともインパール作戦を体験され、終戦後ミャンマーから奇跡的に生還をされた兵士でもありました。帰国後はそれぞれ事業を興されながらも、当協会の創立の発起人として協会の発展に長年にわたり尽力されました。

こののち発行された会報102号から名称が現在の“日本ミャンマー友好協会報”に変更され今日に至っています。

この100号の発行時は、ちょうどミャンマー観光年に当たり、当時の軍政の閉鎖的なイメージを内外に少しでも和らげようと、国を挙げて「ヴィジット・ミャンマー・イヤー」を合言葉にキャンペーンを始めていました。

100号の巻頭に当時会長であられた塚本幸一さんが挨拶を述べられています。

…発足当初から、主にビルマ戦場で戦った日本軍人歴のある方々を中心に、純粋に文化活動を進めてきましたが、これからは、文化交流を母体にしながらも、産業発展の積極的な支援が要望されるでしょう・・・と。

今号はヤンゴンで開催されたミャンマー経済・投資センターのセミナーの様子が紹介されています。日本、ミャンマー両国の中小企業のビジネス交流の場が設けられました。現地テレビで紹介された米村紀幸会長の笑顔が、先人の思いが叶った、これこそまさに回向ではあるまいかと感じた次第です。

編集：松尾 義久